

陳情第 2号 学校法人運営費補助金拡充の要望について

賛成の討論

18番 森 下 金 三 議員

「陳情第2号学校法人運営費補助金拡充の要望について私は、この陳情は採択すべきであります。従って委員長報告には反対の立場で討論をいたします。

井原市の誇る興譲館高校は初代館長阪谷朗盧先生以来創立160年以上経過しております。朗盧先生は美星町九名の出身であり、芳井町築瀬の桜谷において塾を開き、その後西江原で興譲館を創立し今日まで続いていることは、皆さん承知の通りです。その間多くの生徒を育成しております。興譲館高校は我々の時代は公立高校や他の高校の受験に失敗した人たちの受け皿としても多くの生徒が助けてもらってきた経緯があります。今、少子化で生徒数も大幅に減少し経営が厳しい状況は陳情趣旨を見て承知したところであります。郷校として、また井原市の文化遺産としても、このまま伝統ある興譲館を井原市民としても見過ごすわけにはいきません。こうして陳情されたことは、藁をもつかむ気持ちで、切羽詰まった状況であると思います。井原市民、井原市、井原市議会が、この郷校を守っていかなければ誰が守るのですか。井原市議会はこの陳情を重く受け止めるべきです。

全国でただ一つの高校、それは創立以来校名を変えず他校との統合をせずに来ている学校は興譲館ただ一校です。こうした伝統ある興譲館をなくしたら取り返しのつかないことになり、後悔する時が来るのではないのでしょうか。

興譲館高校の経営努力はもちろんですが、井原市としてもできるだけ援助すべきであります。

今議会の一般質問で、ある議員が子どもにお金をかけるのは投資であり、お年寄りにお金をかけるのは経費であると言われたが、実には的を得た言葉であると思います。この際、思い切って投資をしていくことを切に願います

中国のことわざにありますとおり、事の是非如何を顧みるのみ。成敗に至りては天なり。従って、陳情2号は採択すべきであります。以上で討論を終わります。」

12番 三 輪 順 治 議員

「ただいまの総務文教委員長の報告にありました陳情、学校法人運営費補助金拡充の要望を取り上げないという件に関して、反対の立場で討論いたします。

興譲館は、多くは今日は語りませんが、今日160有余年を過ごされております。そしてその間、この地域に与えた経済的、社会的、文化的、色んな意味での意味は大きいと思います。今直ちにこれだという事はありませんけども、将来への投資、並びに過去幾多の

先人も、この興讓館の運営に関して大変な努力を払われております。これはですね、ちょうど興讓館が創立160周年をお迎えになった時に、芳井の歴史民俗資料館で興讓館のあゆみというのを展示されたものでございます。私も展示内容を見ました。学生の確保、学校運営費の確保を非常に先人以来努力されています。例えば明治34年においては興讓館経費にかかる郡費補助の儀懇請書がでております。こうした幾多の困難を乗り越え、今日までおいでになっておられます。私たちはこれを無駄とせず、なお50年100年続く井原市が残せる文化的な教育拠点として、この興讓館高校の存続は当然然るべきであって、そのための前提となる井原市に対する補助金の拡充要求は、私は議会として陳情を受けた以上、お受けするのが私は当たり前であるというふうに考えておるところでありますので、本陳情書は採択すべきと考えております。」

16番 佐藤 豊 議員

「学校法人運営補助金拡充の要望についての陳情に対し、採択すべきとの立場で討論を行います。

今会の陳情に際し、総務文教委員会で参考人からの陳情要望を伺い、各委員からの質疑の後、採決され、賛成3人、反対3人の同数を受け、委員長の判断で不採択とされましたが、傍聴していた私としては、参考人、また学校関係者の学校運営と学校経営に対しての今後の改善とビジョンに前向きさと決意を強く感じたところであります。

興讓館高校は、創立164年を経過した歴史が残る稀有の高校であります。その歴史の中で、地域産業の発展に貢献された多くの人材や本市の経済基盤を形成された人材も多く輩出した郷校としての存在は大きく、今後も地域の高校として存続を強く望むものであります。

近年では、急速な少子高齢化の中にあいながら、学校の特色と個性を大切にしながら、白鹿洞書院掲示の精神のもと、文武両道の私学運営に励まれ、オリンピック選手の輩出、甲子園への出場、全国高校駅伝での活躍で市民への元気発信に大きく貢献してまいりました。また、大学の進学においても、国公立大学や有名私立大学への進学を増やすなどの成果を聞くところであります。

そうした、学校、生徒の取組状況下にあいながら、少子化による300名を切る生徒数では経営的にも大変厳しい状況下に置かれていることも充分理解できるところであり、陳情の趣旨を重く受け止め、今回の学校法人運営補助金の要望についての陳情については採択すべきと考えます。」

20番 森本典夫 議員

「陳情2号に対し、私は採択すべきだと考えますので、そういう観点で討論を行います。

陳情2号は興讓館高等学校提出の学校法人運営費補助金拡充の要望であります。

この陳情を審議した15日の総務文教委員会で、校長先生からこの陳情提出の経緯と興讓館高校を取り巻く現状が述べられました。

その後、委員から約1時間さまざまな角度からの質問が出されました。

校長先生の説明を聞いていて、私立いわゆる「わたくしりつ」の高校の厳しさがひしひしと伝わってきました。

私学助成は、国からの公立高校に対する補助に比べ、まだまだ不十分だと考えます。県の私学に対する助成も全国的に見て43番目ということでした。

このような中で、今後、約3年かけて経営を健全化するという事も明らかにされました。市は平成28年度は350万円補助をしております。

私は、市民の貴重な税金なので慎重な判断が求められると思いますが、私学のこういう厳しい状況下で地元興讓館高校存続のため、これまでの補助金にいくらかでも上乗せするという補助金拡充を望むものであります。

校長先生もこの審議の中で、1円でも100円でも金額の多寡にかかわらず、興讓館のこういう状況に対して関心を持っていただいて寄付をいただく、こういうことは大変ありがたいことだということも言われておりました。

したがって、この陳情は採択すべきだということを申し述べて討論といたします。」

反対の討論

1番 西村 慎次郎 議員

「陳情第2号学校法人運営費補助金拡充の要望について討論を行います。陳情第2号については、総務文教委員長の報告のとおり、不採択に賛成であります。興讓館高校は160年以上の歴史と伝統のある学校であり、井原市にはなくてはならない学校であります。駅伝などスポーツの分野においても、元気な井原を全国に発信し、また井原市民も元気をいただいていることは興讓館高校関係者皆さまに対し、心より感謝いたすところであります。

この度の陳情であります学校法人運営費補助金350万円の拡充の要望についてですが、興讓館高校におきまして、この経営危機脱却に向けてさまざまな取り組みをされておられます。1つは、奨学金給付基金 KSKK170と称して、個人及び企業からの寄付をお願いし、奨学金給付へ充てられようとされています。また、もう1つは、千日間の再建プランを立てられ、経営健全化に向けたこれから3年間の取り組みが具体的に示されており、

通信制教育により東京校180名、岡山校60名の計240名に対して通信制教育を行っていくこと、また、留学生の受け入れとして1学年30名、3学年で最大90名を受け入れる方針で、広報活動も中国のみでなくアジア圏全域へ広げられていくようであります。その留学生1人からいただく留学費用についても引き上げを行っていくということです、今後多くの増収が見込まれます。

こういった具体的なプランを確実にそして着実に経営健全化に向け進めていくことで、創設以来3度の危機を乗り越えてこられた興譲館高校が今回の4度目の危機を乗り越えていただけるものと思っています。

興譲館高校の教育理念の1つである五教之目の義の教えの精神に則って、興譲館高校の頑張り、活躍を期待しエールを送り、この陳情第2号は不採択とさせていただきます。」

14番 大 鳴 二 郎 議員

「陳情第2号、学校法人運営補助金拡充の要望については委員長報告のとおり不採択に賛成での討論をいたします。

陳情書には平成30年度には経営上破綻を来す可能性が大きいとありますが、わかっているなら何故もう少し早く対策を講じなかったか。また、平成29年度予算編成にあたり運営補助金の一層の拡充についてお願いとあるが、この補助金の具体的な金額の表示がない。この陳情書の内容からすると補助金のお願いであると思えます。説明の方が来りましたが、その方々も決めてないと言われました。

2番目、合併による特例措置が終了し、地方交付税は平成27年度から段階的に削減されており、29年度も削減される。国の2017年度予算でも自治体へ配る地方交付税の削減が新聞等で報道されております。そういう中、市も依存財源に頼る割合が非常に大きい、これから先市の財政も厳しくなると思われます。

3番目、市も興譲館高校へ補助金を出していない訳ではない。350万円という額を出されております。興譲館自体も見直す所を見つけ、また削減すべきところ等も検討、改善されていただきたいと思います。

以上で、私は委員長報告どおり不採択に賛成いたします。」

10番 簀 戸 利 昭 議員

「陳情第2号は委員長報告に対し賛成の立場で討論をいたします。市合併より10年が経過し、合併特例債が減額される中、井原中学校の建て替えや、井原市立高等学校も有しております当市において、興譲館は陸上や剣道、野球等スポーツで全国レベルであることは認識するところではございますが、私立の学校法人運営費の拡充の要望については、現在

350万円の補助金を奨学給付基金等に積んでいただいで、有効に利用して頂きたいと思
います。

したがって増額は市民サービスの低下につながりかねないと思いますので、委員長報告
に対し、賛成します。」

15番 宮地俊則 議員

「委員長報告に賛成の立場で討論いたします。

私はこの度の陳情について議論することはともかく、議会が判断し結論を出すことが妥
当なのかどうか、疑問に感じております。と言いますのは、この件に関し、これまで市当
局に対し、正式に同様の要請がなされたという話は伺っておりません。

そうした中、唐突に今定例会の市議会に本陳情が出されたことは、大変不可解に感じら
れます。

また、ご承知の通り、これまでも市として厳しい財政の中、出来る限りの支援を行っ
てきているものと認識しております。この度の陳情書及び資料には補助金拡充とあるだけ
で、その額は明記されておりませんが、その内容から従来よりは相当多額の補助金を指し
ているのではないかと推測されます。

補助金もすべて市民の税金であります。その支出にはより慎重であるべきと考えます。

以上のことから本陳情は採択、不採択を問われれば、委員長報告の通り、不採択にすべ
きものと判断せざるを得ません。」